

史跡国見山廃寺跡第43次発掘調査概要

調査要項

遺跡名	史跡 国見山廃寺(くにみさんはいじ)跡	所在地	北上市稲瀬町 地内
調査期間	平成20年8月～10月(予定)	調査目的	内容確認
調査担当	北上市立埋蔵文化財センター		

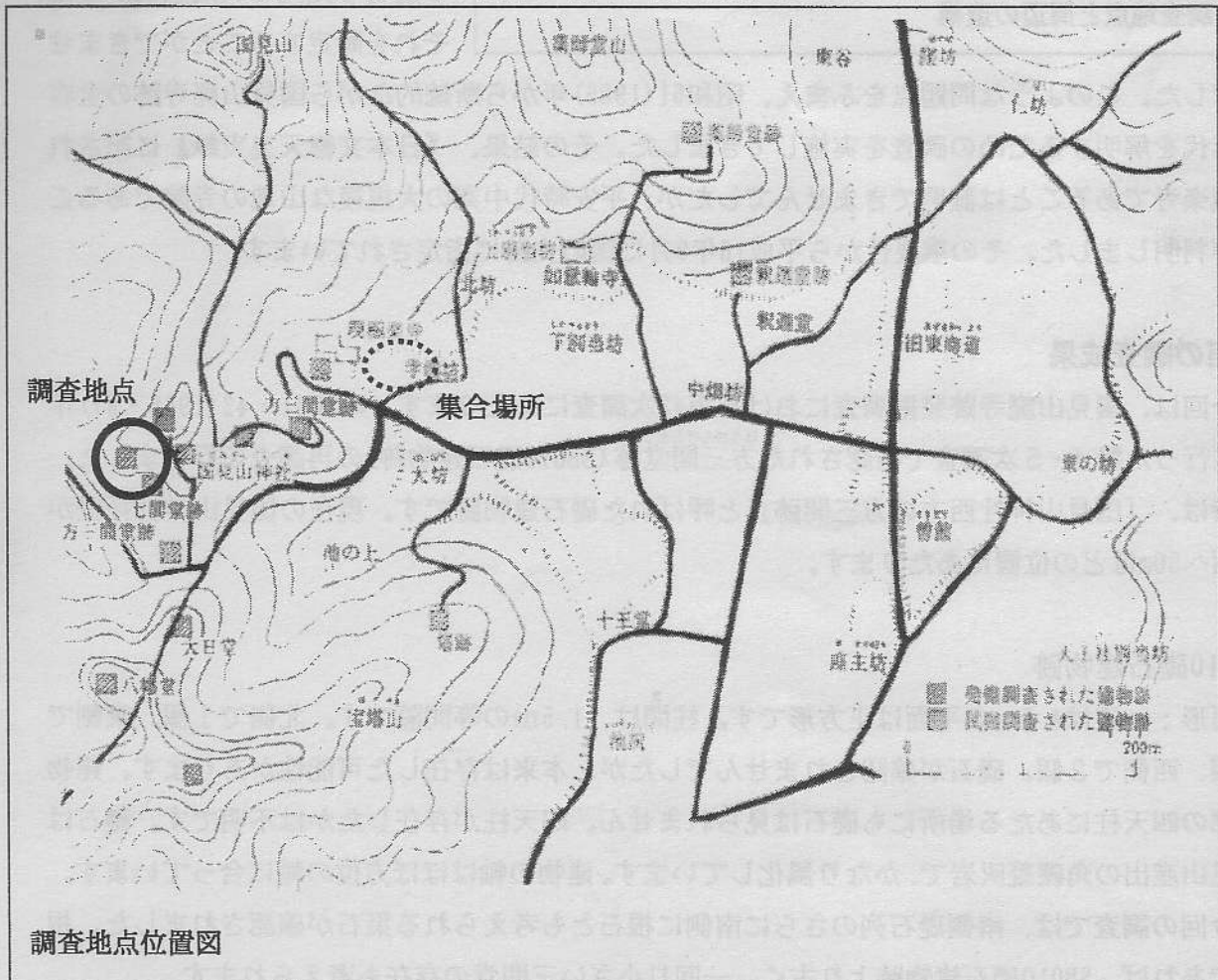
遺跡の位置

国見山廃寺跡は、JR東北本線北上駅から南東約2.7kmに位置し、北上山地西縁部丘陵の一つである国見山一帯にあります。周囲には海拔約150～200mの山々がめぐり、小盆地を形作っています。仏堂跡などの遺跡は、国見山南麓の斜面とそれに続く平坦地に立地しています。

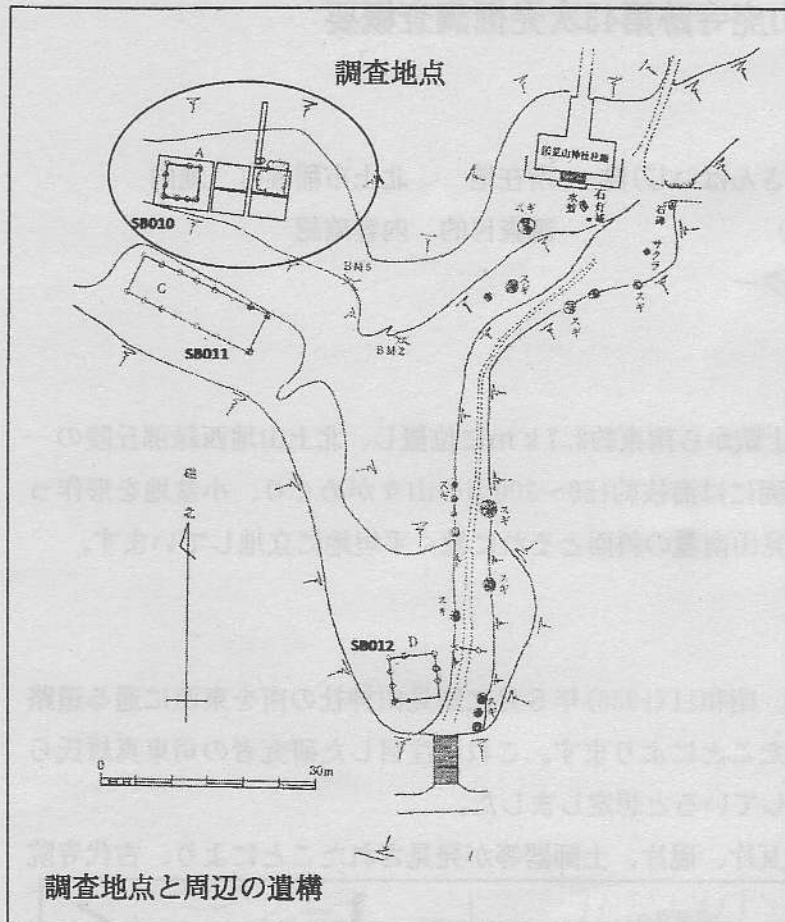
遺跡の概要

国見山廃寺跡が注目される契機は、昭和11(1936)年5月に国見山神社の南を東西に通る道路改良工事の際に瓦の破片が発見されたことによります。これに注目した研究者の司東真雄氏は、この地域に何らかの遺跡が存在していると想定しました。

その後、この地域からは散発的に瓦片、硯片、土師器等が発見されたことにより、古代寺院



調査地点位置図



の存在が推定されました。

今までの調査経過

初期の調査は、昭和38年以降数回の発掘調査が行われ、塔跡、七間堂跡、方三間堂跡などの礎石建物跡が発見され、平安時代の山岳寺院跡であることが判明しました。調査初期段階では、瓦が出土する大規模な寺院跡であることや、遺跡周辺の地名考証等から、六国史の一つである『日本文徳天皇実録』天安元(857)年6月3日の条に記されている「陸奥国極楽寺」跡の可能性が指摘されましたが、出土する遺物や発見された遺構からは、それを断定することができません

でした。このような問題点をふまえ、昭和61(1986)年から断続的ながら国見山廃寺跡の全容と年代を解明するための調査を実施してきました。その結果、『日本文徳天皇実録』に記された極楽寺であることは証明できませんでしたが、平安時代中期の大規模な山地の寺院であることが判明しました。その重要性から平成16年9月に国の史跡に指定されています。

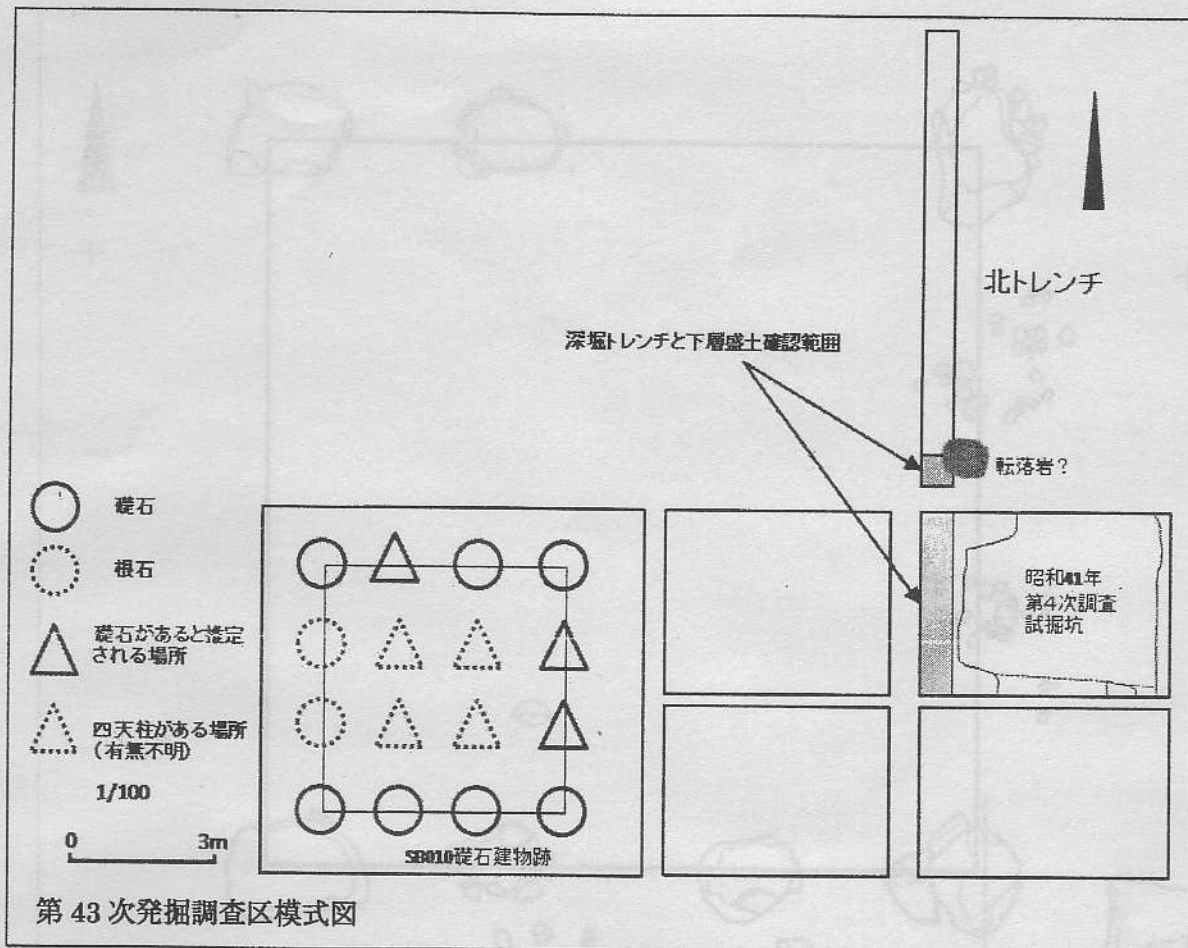
今回の調査成果

今回は、国見山廃寺跡発掘調査における第43次調査にあたります。昭和41・42(1966・67)年度に行った第4・5次調査で確認された方三間堂跡^{ほうさんけんどう}(SB010礎石建物跡)の再調査を行いました。当時は、「国見山神社西方の方三間跡」と呼ばれた礎石建物跡です。現在の国見山神社拝殿から西へ50mほどの位置にあたります。

SB010礎石建物跡

平面形：一辺は4.5mの平面は正方形です。柱間は、1.5mの等間隔です。北側で1個、東側で2個、西側で2個、礎石が確認されませんでした。本来は存在した可能性があります。建物内部の四天柱にあたる場所にも礎石は見られません。四天柱が存在したかは不明です。礎石は国見山産出の角礫凝灰岩で、かなり風化しています。建物の軸はほぼ方位の軸に合っています。

今回の調査では、南側礎石列のさらに南側に根石とも考えられる集石が確認されました。根石であれば、SB010礎石建物跡より古く、一回り小さい三間堂の存在も考えられます。



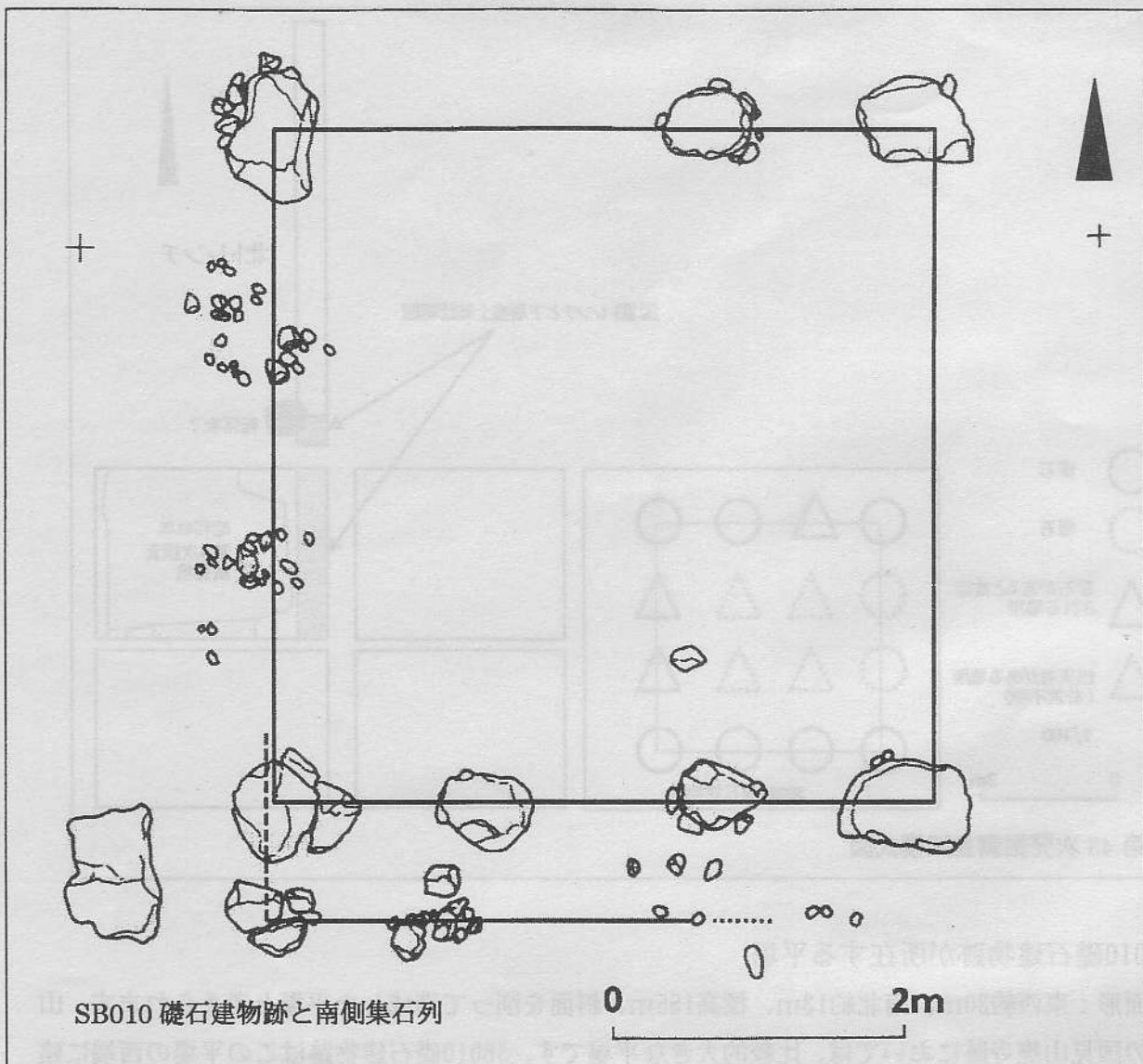
SB010礎石建物跡が所在する平場

平面形：東西約30m、南北約13m、標高155m、斜面を削って造成した平場と考えられます。山中の国見山廃寺跡においては、比較的大きな平場です。SB010礎石建物跡はこの平場の西端に建てられており、そのため建物跡の東側は広場のような空間になっています。

今回の調査ではこの広場のようにになっている場所を調べ、なんらかの建物跡が見られないかを再確認しました。しかし、建物跡は確認できませんでした。ただ、この平場の下層にさらに整地面があることが確認でき、この広場より古い何らかの遺構があることが予想されます。

まとめ

SB010礎石建物跡は、第4・5次調査（昭和41・42年度）の調査報告にて、経蔵跡と推定されたものです。それは柱の間が等間隔で、周辺から瓦が出土し瓦葺建物であると考えられることから、中尊寺の経蔵と同じ特色があるということで推定されたのでした。また、建物の正面に空き地があることも蔵と推定される根拠となりました。今回の調査でも、建物の立地からみて、入口は東側にあったと考えられ、その正面に広い空き地があることが再確認されました。蔵のように物品の出し入れするには、出入口側に作業空間が必要となることが考えられます。また、四天柱に関しては、無かった可能性も高く、もし側柱だけの方三間堂であれば、仏堂とは考えられず、蔵と考えることは妥当です。瓦については、出土量をみれば、このSB010礎石建物跡



の下の平場からは瓦が多量に出土しており、SB010礎石建物跡がある平場から転落したと考えることができることから、やはり瓦葺の建物は、この平場に建っていたと考えられます。また、今回確認された下層整地面を埋めている盛土中には、瓦が出土しないことから、瓦葺建物は、SB010礎石建物もしくは、南側に確認されている集石列から推定されるSB010礎石建物跡に先行する建物のどちらかであったと推定されます。

埋蔵文化財センターこれからの行事予定

入場無料

埋蔵文化財展－掘り出されたくらし－

日程：平成 21 年 1 月 8 日（木）～12 日（月） 場所 江釣子 SC パル催事場
平成 18・19 年度に市内で発掘調査された遺跡の速報展示です。

発掘調査報告会と講演会

日程：平成 21 年 1 月 10 日（土）午後 1 時～5 時 場所 現代詩歌文学館講堂
報告会：平成 20 年度に市内で調査した遺跡をスライドなどで報告します
講演会：講師は未定です。